

平成25年度 第5回市長タウンミーティング 概要

と き：平成25年4月20日(土)
午後2時～3時半

ところ：中央公民館

参加者：98人

○市長あいさつ

(市長より、平成25年度の施策・予算についての説明が行われました。)

○意見交換

質問(男性)

中央1丁目旭町町会には、町会会館がありません。そのため、定例会議などで気軽に集まれる場所がなく不便をしています。地元の旭町公民館も人気があり、なかなか思うように利用できません。そこで、町会会館を造ることができればと思っています。建設に向けた貯金も確保していますが、問題は、建てる場所の確保です。市から土地をお借りして建てられた町会会館もあるようですので、ぜひ、土地の確保について、ご相談に乗ってほしいと思います。

回答(市長)

町会会館は、町会活動の拠点となる大切な施設であると考えていますが、蕨市内の37町会の中で、町会会館を持っていない町会も13町会あり、それぞれ、公共的な施設を利用するなど工夫しながら活動をしています。確かに、町会会館の中では、市が土地をお貸しして、町会が会館を建設している事例が多くありますが、町会会館を建設するには、町会にとっても多額の資金が必要であることや維持管理費もかかること、市としても、使用していない適当な土地がなかなかない、など課題も多いのが現状です。市としては、町会活動はまちづくりを支える大切なものであると考えており、できる限り協力して行きたいと考えていますが、まずは、町会でよく話し合っていていただき、具体的なことについては、担当に相談をしていただければと思います。

質問(男性)

私の自宅のそばの中央4丁目1番地付近のごみステーションについてです。以前、周辺には数箇所ごみステーションがありましたが、なんらかの事情で1か所となり、今は、約50世帯で利用しています。ごみ当番も高齢化でたいへんなのに、他の区域の人たちも勝手に捨てにくるので、ごみ

の量は、蕨で一番多い場所といわれています。それでもなんとかやっていますが、最近、特に困っているのは、車でやってきて粗大ごみを捨てる人が増えてきたことです。多いときは、1日8件もありました。こうした地域のごみ問題を踏まえ、幾つか、お伺いします。まず1点目は、今後、ますますの高齢化で、ごみ当番はもちろん、ごみ出しもできないような状況になることも予想されますが、将来的には個別收拾をするといった、蕨市としての今後の対応についてお伺いします。2点目は、粗大ごみの収集券の金額を安くすれば、迷惑な投棄もなくなるのではないかと思います、いかがでしょうか。3点目も不法投棄の防止にゴミステーションに防犯カメラを設置したらどうかということです。よろしくお願ひします。

回答（市長）

このごみ問題については、町会や公衆衛生推進協議会の皆さんに、大変ご協力をいただいております。まず、1点目についてですが、この先15年間のゴミ処理の方向について定めたごみ処理基本計画を今年3月に策定しました。その中で、これから先の課題として、単身の高齢者のごみ収集をどうするかについて挙げています。具体的な解決策は、まだこれからですが、ご指摘のあったことを含め、今後の検討課題であると認識しております。2点目のごみ収集券については1枚525円ですが、いただく費用以上にごみ処理の経費がかかっておりますので、現行の運用の方向でご理解をいただきたいと思います。3点目の防犯カメラの設置は、さまざまな問題があり難しいと思いますので、抑止力のある看板の設置といった代わりの対応策はないのか、担当と相談いただければと思います。

質問（男性）

1点目は、市で働く非常勤職員の方の待遇についてです。何年も働き事務に精通しており、新人の正規職員が入れば一緒に仕事をし、教える立場にもなろうと思います。こうした状況のなか、昇給もなく賃金が安いのは不公平ではないでしょうか。2点目は、市立病院についてですが、市から2億5000万円もの補助を出してまで経営する必要があるのか、お伺いします。

回答（市長）

蕨市の正規職員は病院・消防を含め、現在、約630人おり、短時間の仕事や臨時的な仕事については、非常勤の方々に仕事についていただいております。非常勤の方は基本的には、単年度の臨時の仕事として、毎回、契約をしておりますので、昇給の制度とはなじまないと思っています。また、臨時職員の方の給与についてですが、他市と比較しても決して悪くはありませんし、今後も他市とのバランスをとりながら、適正な運用を図っていきたいと思っています。2点目の蕨市立病院についてですが、全国的に自治体病院の経営がたいへんだと報道されるなか、市立病院は一丸となって改革を進めながら、黒字経営に向けた努力をしています。23年度は、

震災の影響で若干の赤字となりましたが、24年度については、まだ、会計閉鎖をしておりませんが、黒字の見通しとなっています。お話のありました、2億5000万円の負担金は、赤字の補填といったものではなく、市立病院で救急医療を担っていただくために必要となる夜間の医師や看護師の人件費などの経費です。平成24年度の救急患者は、入院で763人、外来は5829人となっているなど、救急医療は、市民の皆さんの健康を守るために欠かすことはできません。また、負担金についても、しっかりとその役割を果たすためのお金ですので、ご理解をいただきたいと思いません。

質問（男性）

このところ北町公民館の暖房やエレベーターが故障しています。特にエレベーターは利用しているときに故障しないか心配です。心配の方も多くいると思いますので、それらの対応等について、市の見解をお願いします。

回答（市長）

故障のあったエアコンやエレベーターの修理は行いました。北町公民館は、昭和55年に建てられた市民体育館に併設された施設ですので、老朽化していることは承知をしています。市の財源が限られているなか、今後、施設の耐震化など、さまざまな取り組みを優先順位をつけて行っていかなければなりませんので、一度にすべての課題を解決することは難しい状況です。ゆくゆくは抜本改修しなければいけないことは認識しておりますので、防災対策をはじめとする、さまざまな事業をするなかでの今後の検討課題であると思っています。

質問（男性）

蕨市には老人ホームが2つしかなく、申し込んでも時間がかかってしまいます。私はまだ元気ですが、今後のことを考えると心配です。そこで、市の老人ホームの計画についてお聞かせください。また、質問ではありませんが、先ほどご意見のあったゴミステーションについて、私たちの地域では、ごみ収集の日に監視役を一人置くとか、季節ごとに場所を変えるなどの工夫で、かってにごみを捨てていく人はいません。先ほどの方へのアドバイスということで、ご報告いたします。

回答（市長）

高齢者の皆さんにとって、元気で暮らせることがなによりですが、介護が必要になったらどうするといった、心配があると思います。市としても、皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めるなかで、特別養護老人ホームの増設は大きな課題でした。しかし、市域が狭く、市内全域が市街化区域の蕨市においては、施設建設のための十分な広さの市有地がなく、また新たに土地を購入するとなると莫大な財政負担を伴うなど、大変難しい状況にありました。そこで、民有地の所有者に奨励金を交付する新たな特別

養護老人ホームの誘致策を検討し、昨年、約2500平方メートルの土地を所有する株式会社OKIプロサーブに協力の要請を行ったところ、企業としての地域貢献活動の一環として、蕨市の呼びかけに応じていただけることとなりました。具体的な誘致場所は、南町2町目の桜並木の通り沿いで、施設は個室ユニット約90床やショートステイ10床、デイサービスなどが予定され、開設は27年4月を予定しています。また、地域でのゴミステーションの取り組みについてアドバイスをくださり、ありがとうございます。これからも、よりよいゴミステーションの運用に向け、地域の中で助け合い、知恵を出し合っていたいただけたらと思います。

質問（男性）

旧耐震基準の分譲マンションの耐震診断や耐震改修について、ぜひ、市でも補助制度を設けていただきたいと思いますのですが、その考えはありますか。

回答（市長）

市では昭和56年以前に建てられた個人の木造住宅について、診断や耐震改修の補助を行っていますが、ご質問のありました分譲マンション等についての補助制度は、蕨にはありません。地震から命を守っていくという点では、生活の大半を過ごす住宅の耐震化は重要なことであると認識しております。今後、公共施設や水道の耐震化など優先順位をつけながら、さまざまな防災対策を進めていくなかで、共同住宅の耐震化についても引き続き検討していきたいと思っています。

質問（男性）

市長さんの説明で施設の耐震化を進めていることは分かりましたが、アスベストの対策についてはどうなっていますか。また、新聞で学校6日制に6割が賛成というアンケート結果の記事が載っていましたが、市長さんの考えを教えてください。

回答（市長）

以前、アスベストが全国的に問題になったとき、蕨市では、公共施設について緊急点検を行い、撤去や封じ込めなどによるアスベスト飛散防止の工事を行いました。また、今後、注意が必要なのは、施設の改修や解体工事などのときですが、この点についても、現在は、飛散防止対策や工事に当たる方々の安全対策などの基準がありますので、解体・改修工事の際には、きちんと対応するようになっていきます。次に学校6日制についてですが、私は、学校5日制になって以来、土曜日の過ごし方が習い事やスポーツ少年団などで活動している子どもたちと、ゲームなどで過ごしている子どもたちに分かれてしまっている印象があります。そこで、子どもたちの自主的な学習活動をサポートし、基礎学力の向上や学習習慣の定着を図ることなどを目的に、希望する児童を対象とした学校土曜塾を、今年度、東小・西小・南小の3校でス

スタートさせました。今後、全小学校に広げていく予定です。学校6日制を制度として行うことについては、教員の増員をはじめ、既に定着している学校5日制に合わせた家庭での暮らしや地域での団体活動など、さまざまな課題があると思いますが、土曜日に子どもたちが学校にかかわれることは、子どもたちにとってよいことであると思っています。

質問（男性）

市役所と言うと、どうしても縦割りというイメージですが、この前、子どもの健診で保健センターを訪れたとき、図書館の職員が子どもの絵本を紹介してくれたり、栄養士が親身に相談に乗ってくれたり、職員どうしの横の連携が図られていると思いました。この点でなにか工夫をされていることはあるのでしょうか。また、私は結婚して蕨に越してきましたが、これから暮らしていくなかで、自分自身、世代間交流をしたいと思っていますが、そうした、きっかけとなるものがありましたら教えてください。

回答（市長）

蕨は、ご存知のとおり、小さな市ですので、横の連携が非常に取りやすい条件があると思います。もう一つは、職員には市民の皆さんの要望にこたえていくのが仕事ということをお忘れずに、前向きに対応するようお願いをしていますので、そういった点でも連携が図りやすいのではと思います。2点目の世代間交流については、私も大切なことだと思います。例えば、平成19年から開始した放課後子ども教室では、地域の皆さんがスタッフとなり、子どもたちの学習支援やスポーツ・文化活動などを実施しています。そうしたスタッフの皆さんの取り組みが評価され、平成24年度、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受けました。子どもたちとはもちろん、スタッフどうしのつながりもでき、交流の幅も広がります。ほかにも、小さなお子さんがいるのでしたら、子どもの催しを通じた保護者の皆さんどうしの交流も活発に行われています。ぜひ、気軽に公民館や児童センターなどの催しにも、ご参加いただけたらと思います。

質問（男性）

毎年、宿場祭りでシルバー人材センターの皆さんの木工製品が沿道に並んでいます。皆さん、技術をもっていますので、もっと広く市民のために活用できればと思っています。特に、震災対策として効果のある家具の転倒防止ストッパーや扉のストッパーなどは、シルバーの皆さんなら簡単に作れると思いますので、ぜひ、作って活用すれば、安全安心のまちづくりに大きな効果があると思いますが、いかがでしょうか。

回答（市長）

公益法人であるシルバー人材センターの会員の皆さんは、市民の皆さんからの依頼で仕事を行っています。その内容は、蛍光灯の取替えや除

草、家事全般をはじめ、市でお願いしている放置自転車の整理など非常に多岐にわたっており、会員の皆さんは、ご自身の生きがいづくりと地域社会の活性化に向けて活躍しています。お話のありました、転倒防止ストッパーなどは、家庭できる震災対策として非常に効果のあるもので、自分たちの命は自分たちで守る自助の観点から、各自で用意し取り付けていただくよう、啓発しています。しかし、設置の仕方が分からないといった市民のかたもいると思うので、シルバー人材センターに仕事としてお願いすることも一つの方法として考えられると思います。今回、こういった提案があったことについて、シルバー人材センターに伝え、研究してもらいたいと思います。

質問（女性）

まずは、今年度から70歳以上の重度心身障害者医療費の窓口払いを廃止してくださったことや、昨年タウンミーティングでお話させていただいた、ぷらっとわらびの乗り降りの際の、バスと歩道の隙間について幾つか対応をしていただき、ありがとうございました。今回は、文化センター「くるる」の案内標示についてですが、私は何度か、蕨駅西口で「くるる」の場所について尋ねられることがありました。そこで、駅から見える「くるる」の建物の白い壁に大きく標示をしていただければ、皆さん、迷わず「くるる」に行けるのではないかと思います。また、入口の案内文字は横文字で「kururu」となっていますので、高齢者にも優しく日本語表記をすればよいと思いますが、いかがでしょうか。

回答（市長）

重度心身障害者医療費の制度は、一旦、医療機関の窓口で医療費を支払っていただき、申請後、口座に振り込まれる形となっていました。ただ、4年前に改善をし、窓口での支払いを廃止しました。ただ、70歳以上の方については、高額医療など、さまざまな保険制度との関係で、どうしても対応が難しく、窓口での支払いをしていただいていたわけですが、担当でも、この間、いろいろと工夫を重ね、その結果、今年度から70歳以上の方でも窓口払いをしなくて済むようになりました。また、バスについても、引き続き担当が現場をみていますので、今後ともできることから検討していきます。そして、ご要望のありました「くるる」の案内標示ですが、駅から降りて見える白い壁の建物は、くるるに隣接をしているマンション入居者の駐車場棟ですので、市の宣伝は難しいと思います。また、既に設置している横文字表記の看板は直せませんが、催しのちらしや広報蕨など、さまざまな場面で、ひらがな表記の努力をしていきたいと思っています。

※ご質問いただきました内容に関して、担当課の確認など、その場でお答えできなかった内容を、加筆・修正して公開しています。